

4月15日(火)

祝福は思いがけない者に

聖書朗読 マタイの福音書 5:1~6

喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。 マタイ 5:12

イエス様のもとに集まって教えを聞いていた弟子たちは、マタイ5章の「幸いなのは…」とイエス様が言われたとき、その言葉の後にどんな言葉を期待していたでしょう。彼らは、自らの力を発揮し要職に就いているような人たちの名を期待したのではないかと思います。けれども、イエス様がここで挙げられたのは、彼らの期待した者ではなく、心の貧しい者、悲しむ者、柔和な者、義に飢え渴く者でした。

神の御国では福音は、すでに何かを成し遂げ、何かを手に入れ、自分たちの為に何かを得た者たちのためのものではありません。福音とは、神様がなされたこと、そしてこれらからなされることなのです。

私は日常の中で自分の必要が満たされていないと思うとき、そうではないという言葉が私に向けられる気がします。まさにそのようなときこそ、私には出来なくても、神様が事をなして下さる、神の御国の福音なのです。

自分が弱い者と感じるとき、喪失感を覚えるとき、自分は他より劣っていると思うとき、あるいは自分は満たされていないと感じるとき、イエス様は、神様の強さ、豊かさ、恵み、そして力が、すぐそばにあると言ってくださいます。このことは、いかなる弟子もまず聞くべき、そして常に聞くべき教えです。

讃美歌 291 主にまかせよ 汝が身を

祈り 主よ、あなた様が私たちに、はっきりとみことばを語ってくださることを感謝します。私たちが何をしたかではなく、あなた様が神であるがゆえに、私たちが恵みに与らせていただけることを感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 マリブ / ディヴィッド・レムリー

4月16日(水)

神の和解の場

聖書朗読 マタイの福音書 5:23~26

神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。 ヨハネ I 4:20

マタイ5章には、私たちの他者との日々の関わりにおいて、イエス様が大切とされることが記されています。十戒のうちの6つが、他者を敬い公平に接することを人々に求めているのと同じように、イエス様の山上の説教の多くが、人と人との関わりに焦点を当てたものとなっています。

山上の説教でイエス様は、私たちが日曜の聖餐式に与るとき、もし誰かと交わした争いを解決する術を何も講じていないなら、まず行ってその課題に対処しなさいと言っておられるのではないのでしょうか。イエス様はこうおっしゃいました。『出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。』(マタイ 5:24)

パウロがローマの人々に、『だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。』(ローマ 13:8)と促しているように、主は私たちが他者との対立を未解決にしたままであることを望まれません。『日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。』(エペソ 2:26)

主が私に、謙虚さ、他者への共感、そして赦しと感謝の心を与えてくださるよう祈ります。

讃美歌 402 主のしもべのむつまじさは

祈り 親愛なるお父様。私の兄弟姉妹、身近な人たち、そして友人たちに対してもっと思いやりを持って接することができるようにしてください。すべての関係を良好に保つことができますように。イエス様の御名によって。アーメン。

アイオワ州 クレグホーン / ロバート・ブレア



4月17日(木)

イエス様のよう

聖書朗読 マタイの福音書 5:43~48

ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。 エペソ 5:1~2

ある夫婦が、飲酒運転をしていた10代の若者によって息子を奪われました。その若者も事故の衝突によって負傷し、病院へ搬送されました。息子を奪われた夫婦はその入院中の若者を訪ね、彼を赦すことにしました。夫婦は彼を訪問し続け、さらには彼を家庭に招き入れ、自分たちの息子のように彼を養いました。そのような愛と赦しを彼らはどこで見出したのでしょうか。

今日の聖書箇所では、イエス様は敵を愛し、彼らのために祈りなさいと言っておられます。私たちがそうするならば、それは神様の導きに従うことになるのです。イエス様はルカ22章でご自身の敵を癒され(編注:ルカ 22:51)、ルカ23章では敵のために祈り、敵を赦されたとあり(編注:ルカ 23:34)、そしてローマ5:10に記されているように、敵のために死なれました。私たちが敵を愛するならば、それは天のお父様と同じ姿勢を示すということであり、『神にならう者とな』るということです。

神様は、悪い人にも良い人にも、友であろうと敵であろうと、すべての人にわけへだてなく太陽を上らせ、雨を降らせてくださいます。神様の御愛が注がれているゆえに、私たちは神様に忠実な者も、敵対する者も赦すことの出来る者としていただけるのです。

讃美歌 132 めぐみにかがやき

祈り 主よ。私たちをもっとあなた様に似た者としてください。そして、敵と思える人たちに良いことだけをし、また彼らを祈りに覚えて、彼らをいつも愛することが出来るようにしてください。イエス様の御名によって。アーメン。

コロラド州 プエブロ / ルツ・ベーコン

4月18日(金)

私の罪

聖書朗読 マタイの福音書 6:25~36

だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。 マタイ 6:34

心配性というのが私の罪のリストの一番上にあります。それに対する言い訳は山ほどあります。私の両親も心配性でしたし、私は子供の頃、いじめられっ子でした。こうした環境から、不安を抱え、心配性の生き方となっているのかもしれませんが。いかなる要因があるにせよ、罪は罪です。私の心配性は不信仰からくるものであって、神様への信頼が欠けている証拠です。

自分の不安についての言い訳はありますが、それ以上に、神様を信じる理由があります。神様は鳥を養い、野のゆりをこれほどに装ってくださり(26~30節)、私の必要とする食べ物、着るもの、その他生活に必要なものをご存じです。(31節)神様はこれまでも私を困難から救い出してくださいました。神様はキリストにあつて私にその御愛を示してくださいました。これまでそうしてくださったのだから、神様は決して私をお見捨てになることはありません。(ローマ 8:32)

不安は自然に沸き起こる感情ですが、信仰によって、私たちはそうした自然な感情を乗り越えることができます。神様が忠実なお方であることを信じることによって、私たちの不安は打ち消され、魂の平安もたらされます。

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。
神があなたがたのことを心配してくださるからです。

— ペテロ I 5:7



讃美歌 268 まごころもて仰ぎまつらん

祈り 聖なるお父様。私たちの恐れのお念を落ち着かせてください。不信仰をお赦しください。あなた様にもっと信頼する勇気をお与えください。イエス様を仰ぎ見て安らぐことができるようにしてください。イエス様の御名によって願い求めます。アーメン。

オハイオ州 トリード / サイヤー・ソールスベリー

4月19日（土）

暗く静かな夜

聖書朗読 マタイの福音書 14：22～32

幸いなことよ。悪者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。
詩篇 1：1～2

私たちがガリラヤ湖の隣の農村集落で過ごしていたときの、ある真っ暗で静かな晩のことですが、私たちは寝る前に散歩することにしました。私たちは歩きながら、湖の近くでイエス様のご生涯に起こった多くの出来事を思いめぐらしました。

あの大嵐の中、ペテロが恐れを抱いて沈みそうになったとき、ただイエス様に助けていただくしかなかった出来事を思い出さずにはいられません。また、全く魚が獲れずにいた漁師たちに、舟の反対側に網を下すようにとイエス様が言われたので、彼らが網を下ろすと、おびただしい魚のために網を引き上げることができなかったという出来事や、悪霊につかわれている男が集落の人々を恐れさせていたこと、そして何より、イエス様がこの湖のほとりで教えられ、イエス様に従う多くの人の空腹を満たされたという出来事が、ここであったのです。

こうした出来事を覚える経験は、思っていた以上に私たちを勇気づけるものとなりました。お察しのことと思いますが、その晩私たちはぐっすり眠りました。私たちの心は平安を得、信仰が強められました。けれども、イエス様のなされた素晴らしい出来事や力強い教えを思い巡らすのに、必ずしもガリラヤ湖のほとりまでいく必要はありません。イエス様の沢山の素晴らしいみわざやみことばを振り返ってみてください。あなたの魂は平安を得、信仰は強められるでしょう。

讚美歌 295 やすしや 罪の世にも

祈り 親愛なるお父様、あらゆるものの偉大なる神様。常にあなた様のみことばを最も深く敬いながら、私たちの信仰が成長しますように。アーメン。

オクラホマ州 オクラホマシティ / リン・マクミラン

4月20日（日）

恵みの通り道

聖書朗読 マタイの福音書 22：34～39

律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という一語をもって全うされるのです。
ガラテヤ 5：14

かつては、近所の人をよく知っていて、お互い頼り合い助け合ったものです。しかし今では、そのようなことはなくなり、近所の人に会うことさえめったにないのではないのでしょうか。

私もそうです。20年以上も隣り合って住んでいながら、ようやく最近になって隣の人を愛するようになりました。私たちが旅行している間、隣の家の人々が、私たち宛の郵便物を預かり、家の様子を見守り、犬の世話をしてくれました。神様は彼女を用いて私に恵みをお与えになりました。隣人を愛せよとされています。はい、もちろん愛しますと私は答えます。彼女は私の人生で特別な恵みとなりました。

私はこの隣人の健康上の問題が癒されること、それとともに、霊的に彼女の歩みを導いてくださることを神様に祈っています。彼女とはよくコーヒーを飲んだり、一緒に楽しい時を過ごしたりします。彼女は幸せな様子でいつも助けになってくれます。彼女とは抱きしめ合って挨拶するような親しい間柄です。私の隣人は私の友だちです。イエス様は『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』と言っておられます。私はこの隣人を与えてくださったことを神様に感謝します。今日、誰かへの恵みの通り道としていただきましょう。誰かをあなたの隣人にしましょう。

聖歌 578 主の愛のながうちに

祈り 天のお父様。隣人を与えてくださり感謝します。彼らを豊かに祝福してください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。



コロラド州 プエブロ / キャロル・ローズ